

第1回「東京国際空港再拡張に係る環境影響評価技術検討委員会」 議事概要

【開催日時】 平成15年 6月10日(火)14:40～17:00

【開催場所】 東京国際空港ビックバード ギャラクシーホールB

【資料】 資料-1 東京国際空港再拡張事業の概要について
資料-2 委員会設置要領(案)
資料-3 環境影響評価等に関する検討資料

1. 開会挨拶

2. 委員等紹介

3. 委託者挨拶

4. 委員長選任

5. 議 事

- ・ 各資料に基づき説明を行った。
- ・ 各委員から以下の発言があった。

委員:工法が決まっていない中で、方法書を作成する段階で評価項目を選定する際には、工法によって異なる項目についても検討していくのか。

事務局:想定される工法による影響について網羅的に検討し、それらの全ての項目を対象としていくことと考えている。

委員:会議そのものの公開はどうするのか

事務局:委員会資料と議事の概要は公開が出来るものとしたい。委員会自体の公開は考えていない。

委員:現時点では、委員会での議論や資料については公開して、今後、事情が変われば委員会そのものの公開もあり得るとの理解。

委員:ミチゲーションといった形で補償措置する場合、委員会はどういった形で責任を全うすればいいのか。

事務局:具体的な影響や対策をある程度見極めた上で整理をしたい。何らかのモニタリングをする仕組みは必要と考えるので、改めて相談させていただく。

委員:評価書作成までがこの委員会の責任で、今後継続しているいろいろなことが必要になればその都度考えていくことになる。

第1回「東京国際空港再拡張に係る環境影響評価技術検討委員会」 議事概要

委員:工法が決定していない段階で3工法についてできるだけ検討し、工法が決定した段階でその中の1つの工法について準備書等をまとめると理解しておけばいいか。

事務局:指摘のとおり。工法決定の段階では、環境以外の要因も鑑みなければならない。その際、環境について本委員会で審議いただく留意点に配慮していく。

委員:回避を考えると開発行為そのものの中止も可能性に含まれるが、それが不可能ならば、事業の必要性についてどういう形で社会的な合意を得ようとしているのか。

事務局:プロジェクトの実施効果については別途検討しているので、資料をそろえて説明する。必要性和環境影響の両方を鑑みながらプロジェクト推進の妥当性を評価いただくことだと考える。

委員:環境への影響と同時に、新しくできた環境が及ぼす影響(できてしまったことの影響)の評価はどのように行う予定か。

事務局:現在も羽田沖合展開事業について事後調査を実施している。今回についても、事後の調査や監視の方法など、運営に当たっての事後評価についても議論いただきたい。

委員:(航空機と鳥の衝突問題)鳥類調査については鳥の静的な情報だけではなく、鳥の一連の利用形態(採餌、休息、埒)や動き方や方向(湾内での移動)を見定める調査が必要となる。

委員:新しい陸地ができることによって、陸地及び周辺の生物、自然に与える影響について考える必要がある。方法としては、既存の滑走路及び周辺にどういった鳥が集まってどういった利用をしているのかを調べることで、ある程度想定できる。

事務局:鳥類の移動調査に関しては今後検討していく必要があると考えている。空港内の調査は現在計画している羽田空港周辺調査の中で補えるかどうかについても検討したい。

委員:流況への影響としては河川流、潮汐流(潮汐そのものも含む)の他、吹送流も追加する必要がある。なお、東京湾の安全面として高潮があり、例えば東京港の中の高潮が変化しないかどうか調べておく必要がある。

事務局:吹送流については、予測の時に感度を考え、感度解析も行っていくことで準備中である。高潮については別途整理が進められているので、必要に応じてその検討結果を活用する。

委員:遮光水域については未解明な部分が多いため、国内外を問わず、情報を全て収集し、その上で議論をする必要がある。

委員:貧酸素水塊の問題も関係する赤潮や青潮等の大きなイベントは、形成から最盛期、終わる時期まで連続したデータをとることが必要である。

第1回「東京国際空港再拡張に係る環境影響評価技術検討委員会」 議事概要

事務局：調査は、夏の遅い時期から秋口には入りたいと考えている。

委員：杭を打つ場合には、地下水等への影響もありうるので、地下環境の情報（基盤の厚さや杭の打設深度等）を知っておく必要がある。

事務局：ボーリング調査を実施するのでそういった情報は取れる。なお、岩盤は70～80mくらいのところであり、現在の羽田空港でも相当大量の杭を打っている。

委員：建築で杭が礫層まで行って地下水の流れに阻害があることが問題となっているので心配したが、岩盤がそんなに深ければ特に問題はないという気がする。

委員：流況変化のシミュレーションは、ごみの埋立が終わった状況で計算しているのか。

事務局：シミュレーションは新海面処分場、浮島の工事が終了した形状で計算している。

委員：遮光水域の不明点を解決するために、既存資料収集以外にも、今現在やらなければいけない研究を絞り込んで、最優先で早急に取り組んでいただきたい。

委員：何を調べようとしているのかの絞り込みについて、単に事前のデータが沢山あれば良いというのではなく、事前に、事後にどういうことを追跡することが必要か、何に影響するから必要か、という観点でもう少し絞り込んだ選定が必要。（例えば、多摩川の河口部及び多摩川全体がどのような環境特性、生態系特性であり、どういう影響が懸念されるので、何をやるべきかという絞り込みが必要。東京港や、東京湾全体についても同様。）

委員：現況は動いているから、それも含めて考えることで、既存の情報を十分活用すること。

6. 閉会挨拶